

ばんけい

教育ほつとにゅーす  
かわら版こ みち  
教育の小径No.82  
8月号  
2015 August

今月のことば

のう たか  
能ある鷹は  
つめ かす  
爪を隠す

本当にすぐれた実力や才能のある人は、それをむやみにひけらかさないというたとえです。「のう」とは能力のことで、「脳」とは書きません。



国士舘大学教授  
北 俊夫先生

## 9月からの教育活動に備えよう

- 4月に作成した「学級経営案」を見直し、これまでの指導の成果と課題を明らかにします。そのうえで、9月からの学級経営の方針や改善策を考えます。
- 各教科等において、9月からの指導計画（単元構成、教材や題材等）を確認し、指導の見通しを立てます。必要に応じて教材研究を深めます。

今月の記念日

鼻の日(8月7日)

1961年(昭和36年)に、日本耳鼻咽喉科学会が、鼻の病気に関する知識や健康管理に対して啓蒙することを目的に制定しました。「は(8)な(7)」の語呂合わせです。

## 「学級経営案」の改善を

8月は夏季休業中ですが、プール指導や補充学習、宿泊行事、運動指導などさまざまな行事が目白押しです。こうしたなかで、9月からの教育活動の準備も整えておくことが求められます。

学級担任として気になることは、生徒指導や学習指導など、学級経営全般にわたっています。子どもたちの人間関係をどう充実させ、楽しい学級をどうつくるか。子どもたちが参加する授業をどう展開し、授業の質をどう高めるか。秋の運動会や展覧会、宿泊行事などさまざまな学校行事をどのように進めていくか。そうしたなかで、各教科等の授業時数をどう確保するかなど、担任として悩みは尽きません。不登校ぎみの子どもは特に気になります。

学級経営は、何よりも子どもの実態を重視し、よりよい学級集団をつくるために行われるものです。4月当初に作成した本年度の「学級経営案」がどのように遂行されてきたかを振り返ります。目標や指導の重点などの実施状況を点検することによって、これまでの成果と今後の課題に気づき、9月からの方針や改善点がみえてきます。

学級経営案は、作成することが目的ではありません。学級経営の羅針盤として

常に手元に置き、航路を確かめながら、確かな方向を見定めるためです。時には、修正することもあります。

夏期休業中は、9月からの学級経営について、策をじっくり考える恰好の機会です。時間をかけて同僚の先生方と意見や経験などの交換を行い、貴重なアドバイスを得ることもできます。こうした研修を校内で意図的に行う場を設けることも考えられます。

## 先の見通しをもつこと

ものごとを進めるとき、人間はだれでも先が見えてくると、心が安定するものです。いま何を準備すべきか、課題に対して心構えができます。

9月からの各教科等には、どのような単元があり、どのような教材や題材が取り上げられるのか。それらはいつごろ指導するのかなど、各教科等の指導計画を点検して概要を把握します。このことは、教科書や副読本を見て確認することができます。

初めて担任する学年の場合や、これまで指導していない単元や題材がある場合には、いまから教材研究を深めておきます。こうしたゆとりある研修は、比較的時間のある夏季休業中だからこそできることです。

もし必要があれば、地域の博物館や

図書館などに出かけて、話を聞いたり資料を収集したりすることができます。また、教育委員会や他校の先生から指導を受けることも可能です。

このように、これからの教育活動に見通しをもつことは、指導者としての安心感につながるだけでなく、教師としてもものを見たり考えたりするための視野を広げることにもなります。

## 心身のリフレッシュも必要

夏季休業中に備えることは、教育活動に直接つながることではありません。心身ともにリフレッシュすることも大切です。教員の夏季休暇や年休の消化率は他の公務員などと比べて、低いと指摘されています。校内での業務の状況を見て、夏季休暇などを効果的に取りたいものです。職場で休暇を取りやすい状況をつくり出すことは、管理職の重要な役割だと言われています。

日ごろ読むことができない図書を読む。博物館や美術館、音楽会に出かける。登山やハイキングを楽しむ。旅行に出かけるなど、このような行動は、すべて自らの見聞を広げ、教養を深めることにつながります。ひいては子どもたちへの指導に活かされます。

心身ともにリフレッシュして、9月からの教育活動に備えたいものです。

直接体験のすすめ

ある子どもに「花に肥料をあげなさい」と指示したら、その子どもは美しく咲いている花に肥料を直接与えたそうです。また通りを歩いていてキンモクセイの香りがしてきたとき、子どもたちは「トイレのにおいだ」と言ったそうです。子どもの個性だと言ってしまえばそれまでかもしれませんが、どこか可笑しい言動です。それまでに、肥料を与えた体験や、キンモクセイの本物の香りを嗅いだことがないのかもしれない。

これらに類似したことには、卵の殻を割ることができない。ナイフなどでリンゴの皮をむけない。コオロギなど虫を手でつかめない。キャンプで火起こしができない。満点の星空を見たことがないなど、体験不足の事例は枚挙にいとまがありません。

いまの子どもたちは、バーチャルな疑似体験を多く行っています。書物やインターネットで得た知識は多くもっています。そのため、直接体験し、体験をとおして身につけた知識や知恵が不足している傾向が見られます。

体験は成長の過程で行うことに意味があります。特に活動期と言われる小学生の時期には、その子どもに合ったさまざまな自然体験や社会体験、文化的な体験を味わわせたいものです。子どもは「成すことによって学ぶ」からです。直接体験は人間として成長していくうえでの発達課題であり、重要な通過点であると言えます。



アクティブ・ラーニング

いま学校現場では「アクティブ・ラーニング」という言葉が話題になっています。文部科学大臣が中央教育審議会に諮問した「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」のなかに4箇所も登場したことが背景にあります。

ところが、言葉だけが一人歩きしている状況もみられます。「アクティブ・ラーニング」とは、「主体的・協働的に学ぶ学習」だと言われています。上級の学校でたびたび見られる教師による一方的な講義形式の授業ではなく、子どもたちが学習に能動的に参加する学習です。

これまで小学校において実施されてきた問題解決的な学習や体験的・作業的な学習、ディスカッションやディベートなどの討論活動、グループでの作業や共同作品の制作などは、いずれも「アクティブ・ラーニング」だと言えます。子どもの言語活動を充実させることも、子どものアクティブな活動をうながすものです。

「アクティブ・ラーニング」は新しい学習スタイルを意味しているのではなく、これまでも小学校において重視してきた子どもの主体的な学習態度を養う活動であることに気づきます。

「アクティブ・ラーニング」の提案は、小学校に対してではなく、特に中学校や高等学校の授業に対して質的な改革を求めているものだと言えます。

コラム **ものの見方・考え方とは何か(10)**

原因と結果

原因と結果はたびたび対で使われます。原因とそれによって生じる結果に対して、因果関係とも言われます。両者の間には多くの場合、時間的な開きがあることから、歴史的事象を見たり考えたりするときの視点として使われます。

ものごとをさらに改善させ前進させていくためには、現在の状況を静的にとらえるのではなく、結果としてとらえることが大切です。結果としてとらえるとは、どうしてそうなったのか、その背景は何かなど、時系列、動的にとらえることです。

こうした見方や考え方をすることによって、もし現在の状況に課題がある場合、その原因になったもの(こと)を除去したり改善したりすることがで

きます。軌道修正ができます。これとは逆に、よい結果が生まれたときには、その原因を探ることによって、これまでの行動に自信をもち、継続的に発展させることができます。

日々の教育活動においては、さまざまな課題や問題点に遭遇します。ここでは、いきなり改善点を見いだそうとするのではなく、その状況に至った経緯を時系列で整理し、どうしてそのような結果に至ったのか。多方面から多角的に原因の究明を図ります。近年、独りよがりや思い込みにならないよう、利害関係のない第三者から意見を聞くことも重視されています。

結果を原因とつなげることによって課題や問題点の解決を図る糸口を見いだすことができます。合わせて、今後同様な課題を再発させないための教訓や防止策を打ち出すことができます。

INFORMATION

てのひら文庫

文部科学省後援 「てのひら文庫賞」読書感想文 全国コンクール 作品募集中!

子どもたちの小さなてのひらに載せられ、あたためられ、随所に持ち運ばれ、そして、くい入るように読破してもらいたい。

—そんな願いがこめられた読書教材です。

- 総監修 児童文学作家 石森延男
- A5判 16~28ページ 4色・1色
- 1~6年 各12冊
- 学校納入定価 1冊160円(税込)



編集後記

手を出さず顔から転倒し、顔に怪我する子が増えていると聞きます。手を出してうまく転ぶ方法は、転んでみないことにはわからないものです。このように、痛くても子どものときに体験すべき体験は数多くあると思います。夏休みの子どもの遊びの中での失敗体験も重要な通過点でしょう。(T記)

企画・編集：ふんげい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2015年8月1日